

# 社会科学学習指導案

日時 平成21年9月11日(金) 5校時  
場所 1年組教室  
授業学級 盛岡市立仙北中学校1年組  
(男子 名 女子 名 計 名)  
授業者 教諭 小野 豪士

## 1. 単元名 第3章 中世の日本と世界 1 武家政治のはじまり

### 2. 単元について

#### (1) 教材について

本単元は、学習指導要領の「(3) 中世の日本 武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開を鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動を通して理解させるとともに、元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割など、その間の東アジア世界とのかかわりに気付かせる。」に基づき設定したものである。本単元は、日本における「中世」といわれる「鎌倉」と「室町」の2つの時代を中心に扱う。この時代の学習のねらいとして、武士勢力がそれまでの貴族勢力に取って代わる背景から、東国を中心に本格的な武士政権を樹立し、武家社会を展開していった過程を理解すること。そして、農業をはじめとして諸産業が発達し、民衆の成長とともに武士や民衆が中心となる活力ある文化が展開されていったことを理解するという2つが挙げられる。武士は京都においては、皇族・貴族に仕え、朝廷の警固や地方の反乱をしずめるために戦うといった任についたり、武芸をもって朝廷に奉仕したりした。また、地方の有力な農業経営者なども自衛のために武装し、次第に武士となった場合もあり、地方においては農業経営にあたり領主化していったといえる。武士の成長の過程で、地方の豪族に注目させ、土地をめぐるの動きに気付かせたい。鎌倉政権は、荘園・公領という古代の国家機構を受け継いでいる一方、領地を媒介とした主従関係を通して成り立っている封建社会である。土地(領地)の重要性、領地のために命をかける姿につなげ、「鎌倉」「室町」の2つの時代だけでなく、その後の「安土桃山」・「江戸」の時代に見通しをもてるようにしたい。

#### (2) 生徒について

1年組の生徒は全体的に素直な生徒が多いクラスである。授業に取り組む態度については、1学年の他クラスと比較し、授業時の発表に対して消極的な面もあるが(特に未知・未習の題材の際)、授業に臨む姿勢は落ち着いており、意欲も高い。学習内容の定着にはばらつきがあるが、物事に対する思考の場面では、時間をかけながらも自分なりの考えをもって答えを導き出そうとしている。しかし、思考場面において、判断材料となる事例・事象に乏しい側面もあり、それが「自信を持った自分の考え」に結びつかない生徒もいるため、ペアワークや一斉活動での意見交流を通じて、自分の考えの補強・修正・自信の強化につなげていきたい。また「学習のきまり十箇条」では個人活動、ペアワーク、一斉学習と学習形態が変わるため、特に各学習時の切り替えを意識させたい。

#### (3) 指導について

##### ①「教材とのかかわらせ方」について

因果関係を問う発問を設定し、仮説一検証の過程を通して、説明的知識や概念的知識を獲得していく学習を構成した。様々な資料を目的に応じて活用し、効果的に読み解く子どもの育成を目指したい。資料から自分の考えをまとめていく際に自分の考えをもてない生徒も、ペア活動や班活動を通じて「見つけ出すことができた」という感覚を持たせていくことで、自分の考えをもてるようにし、自信をつけさせたい。また、各課題のまとめを、諸資料から導き出した要因をもとに、文章化する活動を取り入れることで「資料活用に関する技能・表現力」などの「活用力」を高めていきたいと考えている。

##### ②「友達とのかかわらせ方」について

(2) 生徒についてでも述べたが、中学1年という発達段階、および判断材料となる事例・事象に乏しい側面があるということを教師サイドで認識したうえで、ペアワークなどの意見交流を通じて、自分の考えの補強・修正・自信の強化につなげていきたい。そして、これらの活動を習慣化させていくことで生徒の積極的な思考活動に結びつけていければと考えている。

### 3. 単元の指導目標

- (1) 武士団の成長がどのような過程でなされたかに関心を持って考えることができる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 守護・地頭の設置や承久の乱などを経て、幕府の支配が次第に全国に広まったことを理解させ、武家政権の特色を考えさせる。(社会的な思考・判断)
- (3) 鎌倉時代の武士や民衆の動きに関心をもたせ、その様子及びそれまでの時代との違いを資料からとらえさせる。(資料活用の技能・表現)
- (4) 鎌倉時代に幕府の支配が次第に全国に広まったこと、および武家政権の特色と新しい動きをもとにして、当時の社会の変化を理解させる。(社会的事象についての知識・理解)

### 4. 指導計画(6時間)

- (1) 武装する豪族たち・・・2時間(本時:1/2)
- (2) いざ鎌倉・・・2時間
- (3) 武士と民衆のくらし・・・1時間
- (4) おしよせる元軍・・・1時間

### 5. 本時の指導

#### (1) 本時の目標

- ① 武士の興りの要因や、武士たちの勢力の広がりがある情報を諸資料から探し出そうと取り組むことができる。(社会的な思考・判断)
- ② 武士の興りの要因や、武士たちの勢力の広がりについて、諸資料をもとに多面的な側面から考察し、文章化することができる。(資料活用についての技能・判断)

(2) 本時の評価規準と具体的評価規準

	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
社会的な思考・判断	資料集、諸資料をもとに課題の解決につながる要因を読み取り、根拠づけながら数多く見つけ出している。	資料集、諸資料をもとに課題の解決につながる要因を読み取り、交流の他者の意見も取り入れながら、見つけ出している。	自分のやるべきことを改めて確認させようえで、教師対応の中で取り組ませる。
資料活用についての技能・表現	武士の興りの要因や、武士たちの勢力の広がりについて、諸資料をもとに多面的な側面から考察し、論理的に文章化することができる。	武士の興りの要因や、武士たちの勢力の広がりについて、諸資料を通じて文章化することができる。	自分のやるべきことを改めて確認させようえで、必要な諸資料を再確認させて教師対応の中で取り組ませる。

(3) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1. 既習の振り返り  2. 学習課題の設定	1. 小学校の既習事項の確認 「藤原道長、頼通（貴族）の摂関政治のあとは、誰が政治を行ったか？」→平清盛（武士） ・藤原道長、頼通（貴族）→1016~1042 ・平清盛（武士）→1167 「平安中期から後期にかけては武士が力を付けてきた時期である」 2. 本時の課題の確認、記入	1. 藤原道長の貴族政治と平清盛の武士政治の間のブラックボックスに気づかせる。 ・武士が力を付けてきた時期であることに気づかせる・ ・プリントの配布
展開 42分	3. 課題解決の見通し  4. 課題の追求  5. 課題のまとめ	武士たちはどのようにして勢力をひろげたか。  3. 「武士たちがどのようにして勢力をひろげたか。」の予想 ・武士同士で戦って勝った武士が勢力を広げた。 ・武士たちで協力して、自分たちの勢力を広げた。 ・武士が貴族をたおすことで、貴族にかわって勢力を広げた。 4. 4人活動で配布資料や資料集から課題の解決につながる情報を見つけ出す→一斉で発表、情報の共有化 ・地方の農民が武装して、軍隊と警察を兼ねていた。 ・荘園の代官も自分の領地を守るため武装した。 ・天皇の一族から武士となる平氏や源氏がいた。 ・源氏や平氏に従い、手を結びあい土地を守ったり、奪った土地を分け合ったりしました。 ・平将門という武将が、関東地方の国々を従え「新皇」の名で一帯を治めることを宣言した。 ・平将門の乱も武士が鎮めた。 ・前九年、後三年の役で源氏が東国に勢力を広げた。 ・保元の乱では貴族と共に源氏、平氏も戦った。 など 5. ①追究で見つけ出した箇所を参考に「武士はどのようにして勢力をひろげたか。」を個人で文章化してまとめる。 目指すまとめ 「地方の農民や、荘園の代官は自分の土地を守ったり、新しい土地を得るために武装することで武士となった。地方の武士たちは、有力な源氏や平氏に従うことで力を広げた。地方の武士たちは平将門や藤原純友のように朝廷に反乱を起こしたが、それを鎮めたのも同じ武士だった。また、武士たちは貴族の警護や貴族の争いを通じて、高い位につき勢力を広げていった。」 →一斉で交流・まとめ→教師のまとめの提示	◎（思考・判断） ・資料集、諸資料をもとに課題の解決につながる要因を読み取り、見つけることができたか。 （ワークシート・観察・発言） 一斉確認の場面では、情報の根拠も確認する  ◎（技能・表現） ・武士の興りの要因や、武士たちの勢力の広がりについて、諸資料や交流を通じて文章化することができたか。 （ワークシート）
終末 3分	6. 学習の振り返り 7. 次時予告	6. 自己評価への記入をする。 7. 次時の確認を全体で行う。	ワークシートの回収

(4) 評価

- ①農村の変化の過程で武士が興り、やがて大きな武士団となって反乱やその鎮圧を通じて実力を伸ばしていったことを資料を通じて考察することができたか。（社会的な思考・判断）
- ②武士の興りの要因や、武士たちの勢力の広がりについて、諸資料をもとに多面的な側面から考察し、文章化することができたか。（資料活用についての技能、表現）